

Visual 栄養学テキスト
 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学
 (初版第2刷以降)

正誤表・更新情報 (2025. 1. 20)

■初版2刷をお持ちの方

頁・箇所	誤	正
27 頁 サイドスペース上から2つ目の豆知識上から4行目	伊藤細胞	伊東細胞
101 頁 本文下11行目	自然免疫 (natural immunity)	自然免疫 (innate immunity)
129 頁 本文下1行目～130 頁本文上1行目	「骨格筋量」「骨格筋力」・・・できる (8).	「骨格筋力」「骨格筋量」・・・できる (8) ³⁾ .
130 頁 表8	要修正	欄外に提示
130 頁 図10	(2012年) 平成24年度	(2020年) 令和2年度 (データにあわせて、グラフ線を微修正)
130 頁 本文上8行目	握力は、男性で25kg, 女性で20kg である.	握力は、男性で28kg, 女性で18kg である ³⁾ .
130 頁 本文上13行目	平均歩行速度は1.5～1.6 m/秒であり, 0.8 m/秒以下になると	平均歩行速度は1.5～1.6 m/秒であり, 1.0 m/秒以下 ⁴⁾ になると
130 頁 本文上15～19行目	(差し替え)	<ul style="list-style-type: none"> ・二重エネルギーX線吸収 (DXA) 法あるいは生体電気インピーダンス (BIA) 法という2つの方法によって筋量を測定する. これらの方法によって測定した両腕と両脚の筋肉量を身長²で除した値を骨格筋量指数 (SMI: skeletal muscle mass index) という. ・日本人においてサルコペニアありとする SMI の基準値は, DXA 法で男性 7.0kg/m² 未満, 女性 5.4kg/m² 未満, BIA 法で男性 7.0kg/m² 未満, 女性 5.7kg/m² 未満である ³⁾.
130 頁 サイドノート	(新規)	<p>【用語解説】</p> <p>フレイル: フレイルは「加齢により心身が老い衰えた状態」を指し, 2014年に日本老年医学会が提唱した. 厚生労働省研究班の報告書では「加齢とともに心身の活力 (運動機能や認知機能等) が低下し, 複数の慢性疾患の併存などの影響もあり, 生活機能が障害され, 心身の脆弱性が出現した状態であるが, 一方で適切な介入・支援により, 生活機能の維持向上が可能な状態像」とある.</p> <p>フレイルは, ①身体的フレイル, ②経済的フレイル, ③精神・心理的フレイルなど, 局面に注目して使われることもある. 身体的フレイルにサルコペニアやロコモティブシンドローム (p.132 参照) などが含まれる.</p>
133 頁 引用文献	(追加)	<p>3) Cruz-Jentoft AJ, et al. Sarcopenia: revised European consensus on definition and diagnosis. Age Ageing 2019; 48: 16-31.</p> <p>4) Chen LK, et al. Asian Working Group for Sarcopenia: 2019 consensus update on sarcopenia diagnosis and treatment. J Am Med Dir Assoc 2020; 21: 300-7. e2.</p>

8 状態によるサルコペニア分類

サルコペニア疑い	骨格筋力の低下 (握力の低下のみ)
サルコペニア確定	骨格筋力の低下に骨格筋量の低下を併発
重症サルコペニア	骨格筋力, 骨格筋量, 歩行速度など身体能力のすべての低下

(Cruz-Jentoft AJ, et al. Sarcopenia: revised European consensus on definition and diagnosis. Age Ageing 2019; 48: 16-31 ³⁾より)